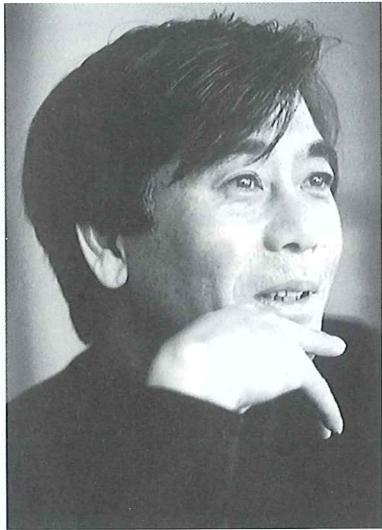


二十一世紀
だ！

人生・農業 リセット再出発！

RESET RESET RESET 第23回



黒木安馬

元国際線航空会社乗務員・作家

1950年熊本県生まれ。高校在学中にAFS奨学生で米国留学後、早稲田大学を経て日本航空に入社。国際線乗務員として業界の常識を破る「カラオケ・フライト」を企画して計7便飛ばし、後に北島三郎らによる「世界初1万メートル上空機上コンサート」も実現させた。自宅は28歳の時に1300坪の土地を開墾して2年半がかりでプールを作りし、テニスコート、コントートホールも造る。自宅ステージでは加藤登紀子、山下洋輔、坂田明、尾崎紀世彦など多くのライブやピカソ展を企画し、地域活性化運動「グループ・ザ・田舎るちあ」を主宰。多くの実体験に基づいた人生成功哲学の講演や著書は大手企業でも人気を博している。昨年いっぱい日本航空を退職し(株)日本成功学会を設立、代表取締役社長として活躍中。著書に「面白くなくちゃ人生じゃない！」(KKロングセラーズ)、「出過ぎる杭は打ちにくい」(ワニブックス)、「リセット人生再起動マニュアル」(ワニブックス)、「小説・球磨川」(ワニブックス上下巻)がある。E-mail : kuroki-yasuma@love.biglobe.ne.jp

過ちを悔い改めざる、これを過ちと言ふ、とは論語にある。過ちそのものは人間として正しい行動の結果であり、それを再度やった時に初めて過ちだと言つてゐるのである。

日本の社会は、個性とか独創性とかの我流を排除し、協調性のある人を良しとする。リクルート主催の新入社員研修講演時に私が取ったアンケートでは「職場の人間とうまくやつていけるかどうか」が実際に最も高い不安材料だった。それを念頭に会社人間として飼い慣らされた優秀な社員は、みんなが賛成してくれそうな間違いなく上にも通る安全パイ

の完璧な企画案しか提出しなくなる。出る杭になるのを恐れ失敗して群れから外されるのを最も恐れる。その可もなく不可もなく横並び集団は、聖徳太子の「和を以つて貴しとなす」の墓標が立つところの去勢された人財の墓場となる。「新入社員、仲の良いのはヒラのうち」は分かっているはずなのに。護りだけに徹した仲良しクラブの温存姿勢、淀んだ水は必ず腐るように社会も駄目になる。何か他者とは違つたことを始めようとすれば、それ相応の覚悟が要るのである。

世界に飛躍している会社の共通点は、何でも良いからとにかく新しいものに挑戦させ、失敗するのも行動の証拠として勲章として認め、何もしなかった者は無能として減点の対象にするほどに、日本の風土の逆を行つてゐる。

歴史上の改革も保守からは何も生まれていない。破壊を前提にしないと新しいものは生まれてこないのである。

だから、その日本からいつたん海外に雄飛した独創的な優秀な人財はまず帰つては来ない。欧米では自由奔放に行動するほどに評価されるのに、悲しいかな、わが国内では新しい芽を出そうとした瞬間に正義面した鳥合の衆に、よつてたかつて摘み取られるのである。まさに盆栽、凡才を作る国である。誰かが新しいことを始めようとした時には、未知数の可能性に対して心から応援して勇気を与え、惜しみなく誉めて評価してあげる風土を創らないと、まさにおぞましい島国根性だけの足の引っ張り合いで終わる醜い未開民族だけが残ることになる。これからますます厳しくなる国際競争社会においては、マスコミの報道姿勢も含めて我々の国民性と風潮もグローバルな視野に変えていかないと太刀打ちできなくなると痛切に感じる。過ちを改めるのに遅すぎることはない。でなければ、角を矯めて牛を殺すことになりかねない。